

子ども・夢グループ

子ども・夢グループの質問を始めます。

私たちのグループは、県議会に関することや、テーマパークのような大きな公園、誰でも相談できる場所について話し合いました。

このことについて、3つの質問をしたいと思います。

質問1 議員になってからの勉強について

議員さんは、選挙に当選してから、自分の考えや意見の実現、広島をよりよくするためにさまざまな提案をしたり、また、他の議員さんが提案したことに対してわからないことがあれば質問すると思います。その際に、提案文や質問文を考えるためにどのような勉強をどのくらいしているのか、興味を持ちました。

そこで、質問です。

議員の方は、提案、質問するに当たって、どのような内容の勉強をしていますか。

また、一日どのくらいの時間、勉強していますか。

答弁（緒方議会運営委員長）

私たち県議会議員の仕事は、知事の考えたやり方が本当に県民の皆様のためになるかどうかを調べて、話し合い、提案し、そして、決定します。そのため、県民の皆さんの思いや願いを真っすぐ、正しく知事に伝えるために、御質問のとおり、あらゆる分野の勉強をすることが求められています。

まず、その中身ですが、例えば、観光についてや教育についてだったり、今では、災害復旧のあり方、あるいは、AI、IoTなど、さまざまな分野の専門の先生方を県議会にお招きし、議員皆で学ぶ勉強会を数多く開催しています。これは、皆さんが学校で数学や英語、体育など、それぞれ専門の先生から習うのと同じイメージを持ってもらえたらよいと思います。さらに、議員個人個人で言うならば、NPOなどの社会活動やボランティア活動を通じて学ぶ人もいますし、大学などの学校に通う人もいます。また、問題の答えは現場にあるという考えに基づき、海に、山に、まちに実際に出向いて行き、そこでお困りの方の生の声をしっかりと聞くことを行ったりしています。

机の上で学ぶことも大事な勉強ですが、私たちは昼夜を問わず現場に行き、自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じることも一つの勉強だと思っています。そういった意味では、きょうのこの子供議会も大切な勉強の場と考えられます。

そこで、質問にありました、どのくらいの時間勉強していますかについては、議員それぞれ差はあるかもしれませんが、寝ている時間以外は勉強の時間であると考えています。なお、机についての勉強時間ということであれば、私について申し上げるならば、1日2時間程度であると思っております。

質問2 子供も大人も楽しく遊べる、テーマパークのような大きな公園について

私たちの周りには、公園がたくさんあります。国土交通省の都市公園等の箇所数調査でも広島県は全国10位で、平均を大きく上回っていますが、実際に私たちの身近にある公園は、雑草が生え、滑り台やブランコなどの遊具がさびているなど古くなったものが多く、利用する子供が少なくなっているのが現状です。また、昔は、広島ナタリーや楽々園遊園地などの遊園地がありましたが、随分前に閉園しています。

一方、最近、災害並みの異常な暑さや天気の急変などで、子供を連れた親は、公園で遊ぶことがかえって危険と感じ、利用を控えるようになってきているそうです。

そこで、2つの提案があります。

1つ目の提案は、誰もが集まりやすく、遊んだ後に買い物や食事などもできる広島駅周辺に、天気に左右されない屋内施設を併設した公園をつくってはいかがでしょうか。図書館などの文化施設のほか、プールやトランポリンなどのスポーツ施設を設け、有料にして施設の維持費に充てればよいと思います。

2つ目の提案は、駅前から遊覧船を使って行き来できる海の公園など、川や海を活用した水辺のアトラクションをつくり、広島駅から川を下って海辺までのエリアを一つのテーマパークのようにしてはいかがでしょうか。広島ならではの魅力や体験を提供することで、県内外からの幅広い集客が見込めると思います。

答弁（地域政策局長）

まず、広島駅周辺に屋内施設を併設した公園をつくってはどうかという御提案についてです。

平成29年に広島県と広島市が共同で策定しましたひろしま都心活性化プランでは、広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を都心の東と西の中心として位置づけて、活性

化に取り組んでいます。

広島駅周辺では、マツダスタジアムができて、たくさんの新しい建物が建って、広島駅を乗り降りする人もふえるなど、広島駅周辺を多くの人々が利用するようになっていますし、広島駅前広場についても、これから整備が進んでいきます。

このため、広島駅周辺を利用する多くの人々が、天候に左右されず買い物や食事以外でも、楽しみ、くつろぎ、憩うことができる、公園のような公共的空間をつくっていくことは大切であると考えています。

このひろしま都心活性化プランにおいても、人々が気軽に集まり、交流できるオープンスペースをつくり出していたり、子供の遊び場の充実などを行っていたりすることとしており、今後も、広島市などと連携を図りながら取り組んでいきたいと考えています。

次に、広島駅から川を下って海辺までのエリアを一つのテーマパークのようにしてはどうかという御提案についてお答えします。

広島市は、中心部を6本の川が流れ、瀬戸内海に隣接する美しい水辺に恵まれた水の都であることから、水の都ひろしま推進計画をつくり、市民、事業者及び行政の協働のもと、計画的に取り組みを進めています。

例えば、水辺に新たな魅力をつくっていくため、美しい川や雁木、河岸緑地を活用した水辺のオープンカフェや、スタンドアップパドルボードの国際大会であるひろしまリバーシティーフェスティバル「R i v e r D o」が開催されているほか、川のにぎわいをつくっていくための拠点として広島駅前に川の駅がつくられ、さらに、縮景園や平和記念公園をめぐる定期船、ウォータータクシーやリバークルーズ、平和記念公園と宮島を結ぶ世界遺産航路などが運航されています。

また、吉島、宇品内港、元宇品、宇品中央、似島の5つのエリアを活性化させるため、市民団体、教育機関、行政機関などで構成するみなとオアシス広島が主体となって、イベントを開催するなど、より多くのにぎわいを生み出す活動を行っています。

広島県としても、こうしたさまざまな取り組みを通じて、水辺の空間が広島の大きな魅力となり、たくさんの人々が訪れ、楽しんでもらえる場所となっていくよう、広島市などと連携して取り組んでいきたいと考えています。

質問3 誰でも相談できる場所について

近ごろ、いじめや虐待の問題が大きく取り上げられており、色々な相談窓口が設置

されています。広島県においても、24 時間子供SOSダイヤルやいじめダイヤル 24 など、さまざまな相談窓口が開設されています。

一方、いじめなどは受けていないけれど、日々何かを我慢してストレスを感じながら、生きていくのがつらいと感じている子供たちもいます。もやもや、鬱々、いらいらといった気持ちを抱えていても、他人に知られたくない場合は、せっかくの相談窓口も利用しないと思います。

そこで、提案です。

声に出して思いを吐き出すだけでも気持ちがスッと楽になることがあります。ひとりカラオケや、海や山で大声を出すのでは、人に聞かれる心配もありますので、学校の保健室などに一人用の防音室を設置してはいかがでしょうか。

でも、中には、思いを吐き出すだけでは気持ちをリセットすることができず、他人には知られたくないけれど、話しかける相手は欲しいという人もいるかもしれませんので、防音室に人工知能——A I を置いて、話を聞いてもらえるようにしてはいかがでしょうか。機械が相手なら秘密も守られます。

さまざまな悩みを持つ子供たちが、心を病んだり、不登校になったりする前に、ネガティブな感情を無理なく捨てて、気持ちをリセットすることができたらいいと思います。

答弁（教育長）

子供たちが、どんな不安や悩みでも気軽に相談できるよう、全ての小中学校及び義務教育学校にスクールカウンセラーを派遣するとともに、先ほど皆さんから御紹介のあった 24 時間子供SOSダイヤルやいじめダイヤル 24 などの電話相談窓口を開設しています。

一方、電話では相談しづらい、話すよりも思い切って文章で伝えたいといった子供たちもいることから、今年度、LINE を活用した子供の悩み相談を試験的に始めました。

引き続き、今回、御提案いただいたようなA I 技術等の先端技術の活用策も参考にしながら、悩みなどを抱える子供たちの気持ちのリセットや不登校等の未然防止に努めていこうと考えています。